

第5学年1組 国語科学習指導案

指導者 柴田 典子

1. 単元名 理由づけを明確にして説明しよう「グラフや表を引用して書こう」

2. 単元目標

○目的や意図に応じて収集した事柄を、わかりやすく整理し、自分たちの伝えたいことが分かるように、文章の構成や表現の効果（引用・図・グラフ）を考えて書くことができる。

○書いたものを発表しあい、表現の仕方に着目して助言しあうことができる。

関心・意欲・態度	書く	言語
・自分の伝えたいことに説得性をもたせるために、より良い図やグラフや表を選ぼうとしている。 ・書いたものを読んで、伝わるかどうか確かめようとしている。	・自分に必要な資料を選び、読み取った事柄を言葉で表現している。 ・自分の考えや根拠をかき分けて伝えている。 ・友だちの文章を読んで、説得力があるかどうかを吟味し、優れた点を具体的に指摘しようとしている。	・考えを伝えるには、「考えとその理由」「理由を裏付ける資料の提示」「結論」の構成要素が必要であることを理解している。

3. ひびきあう子どもたちをめざすための指導の工夫

高学年ブロックテーマ「仲間への共感 自立する自分」

- ・仲間へ共感しつつ、自分の思いも大切にする姿
- ・新しい価値観にふれ、自分を再構築する姿

研究課題「切実な問題意識を持ち、

友だちと関わり合いながら学習する子どもの育成」

手立て・・・子どもの「切実な問題」を見とった単元構想と授業づくり

4. 単元と指導について

①単元について

直前の単元の説明的な文章「天気を予想する」での学習で、説明の仕方、特に「図表・グラフ」を用いた説明の効果について考える。本単元は、前の単元を受け、そうした統計資料を収集し活用することで、自分の考えを分かりやすく説得力をもって伝えるという実践的な学習活動として位置づいている。

自分たちの伝えたいことや説明に説得力を持たせるための効果的な工夫として、おのずと前単元の学習が想起されるだろう。統計資料を具体的にどのような順序で用いて、どのように説明し、考えに結び付けるのかといった疑問に対しては、本単元のモデル文の解釈が大きなポイントとなる。子どもたちの活動の見通しとなり、よりどころとなるのもモデル文である。教材文は、シンプルであり、用いるグラフも一つである。第一段落で「自分の考えや立場をはっきりと示し理由を述べる」、第二段落で「理由を裏付ける資料の提示とそこから読み取れること」、第三段落では「結論」という形になっていて、とらえやすい。第二段落では聞き手を資料のどこに注目させ、それがどんな結果を示しているのかという説明のポイントが、箇条書きにされている。自分の資料に置き換えるとどのようになるかを十分考えさせることで、ゴールがイメージでき、書く意欲にもつながる。さらに今回、子どもたちが伝えたいことは、自分の意見だけでなく、伝えたい相手に「森林を大事にしてほしい」「間伐に協力してほしい」などの訴えたいことも含まれている。第三段落の結論の部分にさらに付け足して、伝える相手へのメッセージを書くことになる。

②指導について

まず、実際に書き始めるにあたっては、「だれに・何を・どのようにして伝え、どうなってもらいたいのか」を明確にした上で始める。総合の振り返り時の掲示物を見ながら、ワークシートに例を挙げ、示しておくことで、立場の決め方が理解しやすくなるだろう。

次に、どんな資料を選べばよいかが大変重要になってくる。何を示しているものなのか、自分の伝えたいことを裏付ける資料となっているのかなど、十分な資料の吟味が必要である。資料の選択の段階では、引用するグラフや表の解釈を大切にしたい。そこで、児童でも読み取りやすい資料やこれまでの総合や社会の学習の中で今回の活動に生かせそうな資料の提示は積極的に行っていく。「資料の収集」がメインではなく、「グラフの読み取り」とその後の「説得力のある説明をすること」が本単元の中心であり、そのねらいが到達できることが大切だからである。

文章が書き終わった時には、互いに検討をする場を設ける。文章を音読し、音読しながらグループのメンバーに聞いてもらう。今回の単元では「書く」文章と資料との整合性や、説明の仕方に着目することがねらいであるので、その点でアドバイスや感想を述べ合えるように、視点を明確にして検討の場に臨むようにする。そのために「書く」時にも検討会の段階でも、着目すべき点が振り返ることができるような視覚的な資料を準備する。

③研究課題に迫るために

*切実さについて

子どもたちは、それぞれ伝えたいと思っている相手、内容、手段が異なる。手段については、よりよく伝わるための方法を吟味し、各自で選ぶようにする。「テレビ局で流してもらおう」「15c hなら小田原に流れるし、小

田原の人も見るからいい」「新聞は？」「タウンニュースがいいと思う。」「タウンニュースなら小田原の情報誌だし、小田原市民が目に見ると思う。」「全校のみんなに言おう。4年から6年なら間伐にも協力してもらえそうだ。」などである。すると、TVを選んだ子は、その原稿を書きたいと思うだろうし、チラシにしたい子は、チラシを書きたいと思っているだろう。ポスターの子は「絵だけでは伝わらないから、絵を説明する文章がないと分かってもらえない」と思うだろう。いずれにしても、伝えるために「書く」必要が出てくる。人を惹きつけたり、分かりやすくするために、絵や図、資料の必要性も同時に感じるだろう。「どんな資料を出そうかな」「どんな順番で書いたらよいか」という知的好奇心は、手段が異なっても共通する。そうした姿をみとり、共通の課題として取り上げることで、この「資料を引用して書く」という単元に子ども自身が迫っていくと考える。

また、本時では学校や家族以外の人に伝えなくてはと思えば思うほど、「わかりやすいか」「これで説得力があるか」「ちゃんと伝わるか」といったことを確認する必要性が高まってくる。いい加減なものではなく、きちんとした文章を書きたい、友だちに直してほしいという思いを高めるためにも、発表者は「だれに」「どのような手段で」「何を」を伝えたいのかを明確に持ち、それを聞き手に理解してもらい、聞き手は、そのつもりで「内容が理解できるものなのか」「説得力のあるものなのか」を吟味しながら聞く。本番での緊張感を想像しながら検討の場に臨むだろう。

*ひびき合いについて

本時では、「一度聞いてもらいたい」「チェックしてもらって、これで大丈夫か見てもらいたい」という子どもの切実な思いをもとに、互いに、よりよいものを目指すために、「資料が伝えたい内容にふさわしいものであるか」「提示資料の説明はわかりやすいものであるか」「伝える順序はこれでよいか」「説得力をもたせるための話し方はこれでよいか」「よくできているところはどこか」などについてひびき合うことになるだろう。また、読んでも「なんとなくわかるけど、今一つ説得力がない」「どこが伝わりにくい原因なのかわからない」といった場合も出てくるだろう。その場合には、「わからない」ことを大事にし、その「わからない」原因について、「ここでこういえば、つながるんじゃないか」「この説明をつけ加えれば資料のことがもう少し分かるだろう」など、グループのみんなと話し合い、解決していくことも考えられる。そうした活動を経て、自分の書いたものに自信をもったり、少しわかりやすく変化させたりし、自分を高める姿がみられると考えられる。今回は「伝える相手」「伝える手段」「使う資料」の異なる仲間とグループを組んで、検討をする。異なることで、資料の説明や、資料と伝えたいこととの整合性について吟味しようとする意識を高めることができるからである。また、実際に、話し言葉で書いている「TV」「直接説明する」ことを手段として選んでいる子どもたちについては、「大きな声で」「話す速さ」など話し方等の技術の向上も本番に向けては必要である。そこは、総合の時間を使って活動を保障していく。

4. 単元指導計画（前7時間）

時	学習活動	○主な支援・留意点 ◆評価
1	<u>小田原の海・森について伝えたいことを整理しよう</u> 間伐枝打ちの体験を経て伝えたいこと (誰に) 小田原の人に より多くの人に 4～6年生に (どうやって) チラシで テレビで 新聞で ポスターで (何を伝えて) 森が荒れていることを 間伐の必要性を 森の役割の重要性を 漁業と森のつながりを (どうやってほしい) 間伐に協力してほしい ポイ捨てをやめてほしい 森を大切にしてほしい など	○整理しやすいようなワークシートを活用する ○自分で考えが整理しにくい場合は、 *これまでの総合や社会での学習活動を振り返る *観点を子どもたち同士が交流し合う時間を取り、より良いものを選ぶようにする。 ◆学習の見通しをもち、自分の考えを整理しようとしている (ワークシート・関心意欲)
2 ・ 3	<u>どんな順番で書いて、</u> <u>どのように資料を説明したらよいか？</u> *教科書を読み、自分の考えに説得力を持たせるために、どのような工夫をし、どんな順序で書いているかを理解する。 *自分が伝えたいことに当てはめて、どんな順序で書けばよいか見出しを書き。見通しをもつ。 *グラフの説明の仕方を読み、引用するときの留意点を確認する。	○文章の構成要素をとらえられるように、板書を工夫し、視覚的にとらえられるようにする。 ○見通しが持てない児童には、友達同士の声かけを促したりや教師が個別に助言をしたりしていく。 ◆文章の構成要素を理解している (ワークシート・言語)
4	<u>伝えたいことの根拠となる資料を決めよう</u> *これまでの学習の中での資料や、参考資料として提示されたものの中に、自分に必要な材料はないかな？ *資料から読み取れること、そこから考えられることについてワークシートにメモしよう。 *自分の伝えたいことにつながるかどうか確かめてみよう。	○自分にあった資料が手に入りやすいように、学習してきた資料から探す時間も確保するとともに、教師から情報提示されたものからも選ぶようにする。 ○手に入れた資料から何が読み取れるのか、どんなことがそこから言えるのかについて、自力で考えることが難しい児童には、個別に支援する。 ◆自分の伝えたいことに説得力をもたせるために、より良い図やグラフや表を選ぶようとしている。(観察・意欲)
5 ・ 6	<u>資料を使って伝えたいことを文にしよう</u> *構成に気をつけながら、文章を書いていこう。 *必要に応じて自分で読み返して、より説得力のある文章にする。	○視覚的提示により、構成要素を確認しながら書き進められるようにする。 ○手が止まっている児童には、モデル文に立ち返るよう助言していく。教師から書き出し文の提示をしたりする。 ◆考えや根拠をかき分け、資料の説明の仕方に工夫を凝らしている (ワークシート・書く)
7	<u>検討会をし、これで伝わるのかを確かめよう (本時)</u> *書いた文章を友達と読みあい、考えや文章の書き方について意見を交流する。「資料が言いたいことにつながっているか」「資料の説明はわかりやすいか」「説得力があるか」	○意図的に伝えたい相手や伝えたい内容について異なる友達とグループを組み、文章が理解できるか、説得力があるかなどがとらえやすいようにする。 ◆友だちの文章を読んで優れた点や直した方がよいことを指摘している (観察・書く)

5. 単元構想

5年国語 理由づけを明確にして説明しよう「グラフや表を引用して書こう」(全7時間:本時7時間目)

★単元のねらい

1. 目的や意図に応じて収集した事柄を、わかりやすく整理し、自分たちの伝えたいことが分かるように、文章の構成や表現の効果(引用・図・グラフ)を考えて書くことができる。
2. 書いたものを発表しあい、表現の仕方に着目して助言しあうことができる。

＜社会・総合の学習の振り返りから＞

- ・社会で水産業を勉強して、おいしい魚を食べ続けるには、小田原のいろいろな環境問題を解決しなくてはならない。
- ・豊かな海、豊かな森のある小田原を、守り続けるためには、もっと多くの人の力が必要だ。
- ・間伐は大変な作業。小田原は森林の世話をする人が減っているよ。もっとみんなで取り組みれば、もっといいのに。
- ・間伐活動したり、いこいの森で野外活動したりしたときにもたくさんごみが落ちていて、川や森を汚している。ごみを捨てないでと伝えたい。
- ・森はたくさんの役割を果たしている。みんなで森を大切にしたいことを伝えたい。

小田原の自然(海・森・川)について伝えたいことを整理し、だれに伝えるか考えよう。

＜★だれに何を伝え、どうなってほしいか？＞

学年の全員に森のお手入れの必要性をわかってもらい、学年で間伐体験や清掃活動にしよう。

たくさんの小田原の人に小田原の自然の豊かさを知ってもらい大切にしてもらいたい！

より多くの人に森林の大切さを知ってもらい、森林のお手入れや清掃活動に協力してもらいたい。

お世話になった環境農政課の人や、森林コーディネータの人に来てもらってみてもらおうか？

チラシがいいな。間伐の体験申し込み用紙と一緒に配りたい

ポスターがいいな。バスの中に張ってもらって、読んでもらいたい。

どのように書いたら伝わるだろう？

ポスター

チラシ

HP

新聞

直接説明

TV

分かりやすい説明が必要だよ。TVや直接説明の場合は原稿を書かなきゃ。

「天気を予想する」では、具体的な数を使って説明していたよ。

納得してもらわないと「大切だ」「気を付けよう」って思ってもらえない。

長すぎると嫌だから、短くわかりやすくしたほうがいい

絵とか写真とか、グラフをのせたほうがいい。

「ポスターで伝えたい」「チラシで」「TVがいい」「手紙」など手段についても話ができるだろう。どの方法が、一番伝わるのかは、総合の時間を使って吟味する。吟味することで、ポスターでもロゴや絵だけでは伝わらないこと、そこには文章が必要であること、ひきつたりわかりやすくしたりするために写真や図やグラフなどの必要性に徐々に気づいてく。自分が一番よく伝わるだろうと判断した手段で「伝えたい」という思いを実現させていく

伝えたい手段が子どもによって異なるので、手段によって書き言葉で文章を書く子と、話し言葉で文章を書く子が出てくるだろう。いずれの文章でも、分かりやすい説明の順番、そのための絵や図やグラフの引用の仕方などを知ろうとする知的好奇心を見とり、学習の流れを作っていく。

どんな順番で書いて、どのように資料を説明したらいいかな？

「表やグラフを引用して書こう」の例を読んで、説明の順番や資料の引用の仕方を学ぼう

社会科などでこれまで学習した分野で考えを膨らませる子がいるだろう。資料を集める技能の習得はここではねらないので、子どもと共に、集め、より良いものを積極的に提示していく。ここで、自分の伝えたい思いに切実なものにするために、情報提示は丁寧にを行う。読み取りは個別に支援する。

どんなグラフがいいかな？
社会科の資料集のグラフが
使えそうだな。
こういう資料ないかな？

森が育むミネラル豊富な水の成分
森林に従事する人の数の変化
小田原漁港のブリの漁獲量の変化
間伐や山のお手入れなどのイベント数
小田原の海に生息する魚の種類数
小田原の森林面積と二酸化炭素含有量
森林が蓄える水の量
CO2を酸素にするのに必要な木の本数

資料が決まった。よし、文を書くぞ。

資料を使って、伝えるための文を書こう

伝えたいことの根拠となるグラフや表を決めよう。

グラフや写真をメインに説明していけばいいんだ。最初に自らの考えや伝えたいことを言うんだ。

- ① 第一段落
自分の立場とその理由
理由とは、なぜなら・どうしてかというところからわかること
- ② 第二段落
理由をうら付けする資料の提示
そこを表現するグラフ・表・図なのか？
どのようなことが分かるものなのか？
注目する言葉や数字を示す。
注目する言葉や数字が何を意味しているのか。
- ③ 第三段落
結論(最初と同じ)＝自分の考え
さらに伝えたいこと(相手にどうなってほしいか)

分かりやすい文章になっているかな？ 伝えたい相手にわかるかな？
自信がないから、一回聞いてもらいたいな。納得してくれるかな？

これでよいかどうか互いの文を検討しよう(本時)

読みあおう

- ・資料が言いたいことにあっているか？
- ・わかりやすく資料を説明できているかな。
- ・文章の書き方で間違えはないかな。
- ・考えや伝えたいことが伝わるかな？

コメントタイム

- ・資料から分かることはもう少し詳しく説明したほうがいいよ。ちょっと短いかな。
- ・すごいこのグラフで森林が荒れているってわかっていいと思った。
- ・資料で分かったことが、どうして森林と関係あるかがわからないよ。

検討の視点はあらかじめ子どもと整理する。「わかりにくいな。でもどこが悪いのかわからない」という場合を大いに認め、グループで話し合ったり全体で話し合ったりする場面を設定する。

友だちに教えてもらった部分を直して、本番発表の準備をしよう
(総合へ)

6. 本時案（別紙）

7. 実践を終えて

（1）本時の様子

子どもたちは、原稿を書く前、「どのようなチラシやポスターなら読んでもらえるか？」ということを総合で話し合った。そこで出されたのが、右のようなものである。子どもたちが考えたこの「読んでもらうための工夫」をもとに、「じゃあ図や表を入れたわかりやすい説明の仕方ってどうやって書けばよいかな？」という、「国語の教科書になんか似たやつ出ているかも?!」と子どもが探し出した。タイトル通りの単元があるので、見つけるにはそう時間もかからず、見つけた子からどんどん読み始めた。読み取りには支援の必要な子もいるので、みんなで少しずつ読み、内容を整理していった。

書くのにはやはり時間がかかったが、予定より+1時間程度でできた。本時にはみんなの文をコピーして検討しあおうということになった。検討の視点は、学習してきたことが生かされているかどうかをもとに、3つにした。これは、子どもが読み取ってきたことでもあるので、授業の最初にこちらが整理し、提示をすることにした。

読んでもらうための工夫

- ・ずらずら書きすぎない
- ・伝えたいことがわかる
- ・わかりやすい説明

・絵、図、表、グラフ

がある

- ・文字の大きさをかえる
- ・色の工夫
- ・引き付ける見出し
- ・アンダーラインや囲み

原稿を検討する時の視点

（1）書く順序はこれでよいか

＜自分の考えと理由→グラフの提示、説明→まとめ、伝えたいこと＞

（2）グラフや表が、自分の考えにあっているか？

（3）伝えたいことが伝わっているか？

子どもたちは互いの原稿に赤と緑と黄色でアンダーラインをひきながら読んだ。直した方がよい部分（赤）、よいと思う部分（緑）、どう直せばよいかわからないからみんなで考えたい部分（黄色）である。本時は線を引いたところを伝えあいながら、検討をしていった。こうした色分けによって友達に伝えたい内容が整理されていたことは、子どもたちにとっても有効だったようで、黄色の部分を中心にグループで「～という言い方の方がいいよ」「ここに、～という文章を入れたほうがわかるんじゃない。」「う～ん、なんかおかしいな。」と何回も読み直したり、言い直したりしながら話し合う様子が見られた。また、グラフを友達のために一緒に選びなおしたりするグループもあった。検討の時間として用意した45分はあっという間にすぎ、検討後によかった部分を発表しあおうかと思っていたが、その時間はなく終わった。多くのグループが「まだおわってない!」「もう一時間ほしい。」ということで、もう一時間検討し、書き直しを含めた清書をするようになった。子どもたちは、互いのアドバイスをもとに、書き直しを行った。普段なら、「面倒くさい」と思うような作業であるが、さらに分かりやすくしようと自分を高めたり、自信をもって原稿を書き写したりする姿がみられた。また書き直したものが、これでよいか友だちや担任に確認するなどしていた。こうした姿から、検討の時間が、ひびき合い、互いに高めあうことができたと感じることができた。

（2）単元を通しての成果と課題

単元を通しての成果は、こどもの変化である。国語の教材文はちっとも読もうとしない子が、細かい字で書かれたみんなの感想集を45分集中して読みこむ姿が見られたり、書くのが苦手な子が、資料を載せながら一生懸命新聞にまとめたりしていた。HPを作成した子は、休み時間などもパソコンに通り、グラフや表の作成の仕方なども学び、市役所のホームページにリンクしてもらったりした。子どもたちにとって「切実な問題」となっていたからこそ、そうした「次はこうしたい」「これを知りたい」という次への追究心につながっていったと考える。また、自分の考えをしっかりとち、根拠をもって表現できたことはとてもよい経験となった。今回の出来上がったものには、だれ一つとも同じものはなく、それぞれ自分の意見に必要な資料と説明が施されていた。出来上がった作品を確かめながらみんなで読み味わい、4月の国語の授業で、「5年生の国語は自分の考えをもつ」というところに課題があると説明したが、その課題が達成できたことも褒めた。

課題は、授業が1時間経過するたびに単元構想が直され、新たに必要な支援や手立てが出てきたことである。例えば、総合で子どもたちと相談する流れになった「読んでもらうための工夫」は、最初単元構想には組み込まれていなかった。しかし、この話し合いがなければ、「図やグラフを引用したわかりやすい説明」ということに対する切実な問題意識は築けなかったと考える。また、色分けをして検討の際に話し合う部分を焦点化したことは、子どもたちが原稿を読む前の段階に至って、初めて必要だと思った支援であり、単元構想に反映されていない部分でもある。具体的に子どもを想像して書きつつも、目の前の子どもとすり合わせていくと、まだまだ見えていない、足りていない部分があると実感した。結局バタバタと授業の中で意見を整理したり、指示を出したりすることになった。そういう修正が必要不可欠とはいっても、もう少し計画的に子どもたちの活動に合わせた単元計画が組み立てられれば、さらに教材の準備や指導にもよりゆとりをもってあたれると考える。今後に生かし、丁寧な見とりを重ね、単元構想の作成にあたりたい。